

だい1かい いじん いけん
第1回の委員の意見をまとめています。

しりょう
資料2

だい1かい
第1回

かしょう
(仮称) い し そつうじょうれいけんとうぶかい
意思疎通条例検討部会

ごいけん
ご意見まとめ

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

しゅわげんごじょうれいせいいてい く ようぼう くに ようぼう だして ほう まって
○手話言語条例制定を区に要望してきた。国にも要望を出しているが法を待ってられない
おもい かくちいき じょうれいか うごき ねりまく ようぼう だし
という思いから、各地域で条例化してほしいという動きがあり、練馬区にも要望を出している
けいいい りかい
経緯を理解してほしい。

じゅうしょうしんしんしょうがい みずからはなす こんなん したい ふじゆう ゆびさし
○重症心身障害(※1)は、自ら話すことが困難。肢体の不自由さもあるので指差しも
むずかしい つかって こたえ
難しい。コミュニケーションボードを使って、「はい/いいえ」で答えられるようにしたり、ボ
とれる しせんにゆうりよく
ードでなくタブレットでコミュニケーションが取れるアプリもある。視線入力(※2)などの
ぎじゆつ すすんで ひとり あいしーていー つかえない ほんにん ほごしゃ
技術も進んでいる。一人では、そうした I C T のツールを使えないので、本人や保護者にそ
あいしーていー しえん ひと いしそつう はば ひろがる おもう
うした I C T の支援をしてくれる人がいれば、意思疎通の幅が広がると思う。タブレットな
つかい ひと おおい
どは、使いこなせていない人が多い。

じゅうしょうしんしんしょうがい じゅうど したいふじゆう じゅうど ちてきしょうがい じゅうふく かさなあって じょうたい
※ 1 重症心身障害：重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した(重なっている)状態

しせんにゆうりよく しせん め うごき そうさ
※ 2 視線入力：視線(目の動き)を使って、パソコンのマウスなどを操作すること

だい1かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第1回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○日常生活では、会話をしなければならない場面がたくさんあるが、苦勞することが多い。外見から見えない障害だから、苦勞することが多いのかなと思う。耳マーク(※3)シールなど自分の障害を知らせやすくする方法をもっと普及してほしい。耳マークは、病院で取りくまれているが、スーパーマーケットなどでも取り組んでほしい。

○スーパーマーケットなどでタッチパネルで支払いが可能なところが増えている。声でのやり取りを必要としないので助かっている。いろいろな方法が選べる環境があればいいと思う。

※3 耳マーク：聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク。



みみ
耳マーク

ぜん にほんなんちようしゃ ちゆうとしちちようしゃだんたいれんごうかい
(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会HPより)

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん
第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○自分で自分の障害を伝えるようにしている。スーパーなどでも私自身は、「このように対応して
ください」と伝えている。でも、それを受け入れてくれる社会になっていないと思う。理解者が
増えてほしい、手話通訳者が増えてほしいと思うが、どこにでも手話通訳者がいるわけでない。
スーパーなどでは、筆談で対応してくれる場合もある。

○会社などでは、コミュニケーションの輪に入れないと感じる。手話でのコミュニケーションがで
きないので、輪に入れられないことがある。どの障害でもそうだと思う。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条 例 検討部会のご意見

○健康診断や特別支援金など申し込み方法が複雑で分からないことがある。書類の記入例や絵をつかった説明書、動画で手続きの仕方を知らせてくれたらいい。一緒に手続きを考えてくれる人がいるとよい。

○お店で、うまく言葉で伝えられず困った。文字でなく具体的に内容が分かる道具があるといいと思う。例えば、コンビニで「温める/温めない」のカードがあって、指差しできたり、飲み物の大きさ (S とか M とか) を写真や実物で教えてくれたりなど。飲食店で、割り勘したかったけど、一人いくらか分からず、うまくできなかつたとき、レジで障害者手帳を見せたら、割り勘の計算をしてくれたことがあった。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条 例 検討部会のご意見

- ^{けいさん}計算など^{すこし}少しできることがあると、「こっちもできるでしょ」と^{かんちがい}勘違いされてしまうことがあり、
^{じゅうぶんしえん}十分支援を受けられないと^{かんじる}感じることもある。
- タッチパネルは、^{しかくしょうがいしゃ}視覚障害者にとっては^{むずかしい}難しい。最近^{さいきん}は、スマホを^{つかっている}使っている色を^{にんしき}認識するアプリ
で、^{くつした}靴下の^{いろ}色を^{まちがい}間違いないようにしたりするなど、^{かつよう}活用できている人も^{きく}いると聞く。でもスマホ
などが^{にがて}苦手な^{ひと}人もいて、^{かつよう}うまく活用できない^{ひと}人もいる。
- スーパーでは、^{あんないがかり}案内係がいることもあるが、^{ちいさいみせ}小さい店などだと、^{ひと}そういった人が^{じぶん}おらず、自分で
^{ふれられない}触らないと^{しょうひん}商品が^{すこしめいわく}分からず、^か少し迷惑が^{かんかく}られたりもする。コロナ禍では、^か間隔を^{かんかく}あけてレジに
^{ならぶ}並ぶのも^{わから}分からなかつたりする。

だい1かい かしょう いし そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第1回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○ ^{おなじしょうがいしゅべつ} 同じ ^{ひと} 障害種別でも、^{ひとり} 人によって一人ひとり ^{ちがうん} 違うんだということを ^{りかい} 理解してもらいたいと思う。

^{しょうがい} 障害のない人たちがそのことを ^{いしき} 意識してもらいたい。

○ ^{こえかけ} 声掛けによって ^{りかい} 理解することは、^{ひつよう} これからも必要だと思う。^{きかい} 機械だけじゃなくて、^{きんじょ} 近所のおばさん

に ^{こえ} 声を ^か かけたら、「^{ちがう} それ違うよ」と ^{おしえて} 教えてくれるなど、^{きがる} そういう気軽なやり取りがある世の中に

なってほしい。

○ ^{ことば} 言葉で ^{かた} コミュニケーションをとれない方の ^{いし} 意思をどのように ^{とる} くみ取るのかというのは ^{なやましく} 悩ましく、

^{かだい} 課題と ^{おもって} 思っている。^{おや} 親が ^{きめて} 決めてしまっていることもあると思うが、^{おも} 本人の ^{ほんにん} 意思を ^{いし} 大事に ^{だいじ} したい。

^{ことば} 言葉を ^{はつする} 発することができても、^{りかい} すべて理解しているとは ^{かぎらない} 限らない。^{こうどう} 行動とか ^{ひょうじょう} 表情から ^{はんだん} 判断する

というと、^{じかん} 時間も ^{ていねい} かかるし、丁寧 ^{おもう} にやっ ^{てい} てい ^{ない} かないとい ^け ない ^{おもう} と思う。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

- パンフレットが分かりにくいということは、わかりやすい版作成ガイドラインがあるので、それを参考にしてもらえば少し改善させられるのではないかと思う。
- コミュニケーションをとるときには、適切な言葉が選んでいるのか、言われたことにきちんと答えられているか、言葉のキャッチボールができているか心配になる。たまに、自分のことばかり話してしまう。特に、電話は相手の顔が分からないので難しい。対面で相手の顔が見えた方が話しやすい。
- 相談したときに、話をまとめてほしいと言われて、うまくまとめられなくて困った。話が長いからと言ってくる人は、話が聞きたくない人だと思うから、話を聞きたい人が相談員になったらいいと思った。

だい 1 かい かしょう い し そつうじょうれいけんとうぶかい いけん 第 1 回 (仮称) 意思疎通条例検討部会のご意見

○^{しゅうろう}就^{そうだん}労^{かいしゃ}についての相談^{いいたい}をするときや会社^{がまん}では、言^いたい^{こと}を我^が慢^{まん}してしま^うこと^{がある}。

○^{そうだんいん}相談員^{なに}に「もし何か^{いって}あったら言^いって^ね」と^{いわれ}言^いわれても、^{そうだん}相^そ談^{だん}でき^{ない}こと^{が多い}。^{おおい}サ^ービス^{ていきょう}提^{てい}供^{きょう}
^{けいやくじ}の契^{めんだん}約^{めん}時^{だん}、^{おおい}面^{めん}談^{だん}して^{もら}う^{こと}が^{多い}が、^{じかん}時^じ間^{かん}を^{じゅうぶん}十^{じゅう}分^{ぶん}と^{って}ら^って、^{あんしん}安^{あん}心^{しん}して^{はなせる}話^わせ^るよ^うに^し
て^ほしい。

○^{せいしんしょうがい}精^{かた}神^{こべつせい}障^{たかい}害^{ひと}の方も個^{つきあいかた}別^{たいじん}性^{にがて}が^{高い}。^{ひと}人^{ひと}と^の付^{つき}き^あい^かた^た方^{かた}など、^{しょうかい}対^{たい}人^{じん}コ^こミュ^{ミュ}ニ^ニケー^{ケー}ション^{ション}が^{にがて}苦^く手^てな^{ひと}人^{ひと}も^い
る。^{はったつしょうがい}発^{かた}達^{たつ}障^{しょう}害^{がい}の方は、^{しょうかい}コ^こミュ^{ミュ}ニ^ニケー^{ケー}ション^{ション}が^うま^まく^でき^{ない}こ^{とも}あ^る。^{しょうかい}紹^{しょう}介^{かい}の^あつ^たた^コミュ^{ミュ}
^{つかって}ニ^にケー^{ケー}ション^{ション}ボ^ぼード^{ード}な^どを^{つか}っ^て、^{ばめん}い^いろ^ろい^ろな^ば場^{めん}面^{めん}で、^{やりとり}や^り取^{とり}り^がで^きる^よう^にな^らば^いい^と
^{おもった}思^しっ^た。